

4 次期食育推進プランについて

調査結果等から見てきた京都市民の特徴と課題～次期プランの施策の方向性

意識調査からみた市民の特徴・課題

- 中高年の男性の肥満及び高齢者のやせの増加
- 食生活に満足していない理由は「食べ物に偏りがある」が一番多い
- ほとんど毎日「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる」市民(15歳以上)は、半数以下
- 朝食で野菜・果物類を摂取する小中学生は約4割
- 3歳児、小学生、20～30歳代男性の朝食の喫食率が5年前より低下
- 3歳児:家族そろって食事をする頻度は、朝食では「ほとんどない」が約4割
- 夕食では「週に2～3日」が約5割程度、「毎日」は2割程度
- 15歳以上の市民が、1日1回以上食事を作る頻度は、女性と男性で差が大きい
- 近郊の農作物を購入する割合は、5年前より高い
- 水や食品の備蓄は「していない」が半数以上
- 「食べ残し」「ごみを減らす工夫」をしている割合は、若い世代で低い
- 「学校給食」で出されたおばんざいは、子どもたちの認知度が高い
- 若い世代ほど、行事食やおきまり料理を知らない割合が高い

今後の取組の観点

- ①一人ひとりの食への関心を高め、行動変容を促す食育の推進
- ②個人の取り組みを支える食環境の充実
- ③京都ならではの取組や強みを活かした食育の推進

策定にあたり考慮すべき事項

- ①京都市の5年間の取組の達成度から、京都市民の姿を反映させる
- ②国(内閣府食育推進室)の第3次食育推進計画の動向を盛り込む。
- ③京都市民健康づくりプランの全体目標「健康寿命の延伸」を目指す。
- ④次期「京都市食の安全安心推進計画」との関連性を重視する。

次期プランの施策の方向性

1 市民が主体的に取り組む食育

(知識・意識の向上と改善)

- 食事内容の改善
- 食文化の理解と実践(再掲)
- 食品を選択する力の向上
- 環境に配慮した食の実践

2 地域の取り組みや環境づくり

- 共食の実現
- 食育に係る人材育成・ボランティアへの支援
- 地域における食育の展開
- 食育実践のネットワーク
- 食の安全安心の確保(再掲)

3 京都の食文化の継承

- 京都の食生活の温故知新
- 地産地消の推進
- 食文化の体験と継承

4 食の安全安心の確保と情報発信

- 事業者による自主的な衛生管理の推進
- リスクコミュニケーションの充実
- 正確かつ適切な情報の発信